

# 見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち

August 2015 vol.16

August						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

## ◆三河地震追憶之碑

所在地：安城市藤井町

交通：名鉄西尾線「南桜井」駅南東約2km

昭和20（1945）年1月の三河地震は西三河南部に位置する横須賀一深溝断層により引き起こされた地震で、断層が隆起して突き上げた地帯及び地盤の軟弱な平野部で大きな被害が発生しました。直前の昭和19（1944）年12月には東南海地震が発生しており、大きな揺れが続いたことが被害の拡大の一因となったとも考えられています。

旧桜井村（安城市）はこの三河地震を引き起こした横須賀一深溝断層の北西部分の延長に位置する村で、藤井集落（現在の安城市藤井町周辺）では全117戸中90%以上の107戸が全壊し、住民611人中77人が死亡するなど、非常に大きな被害が出た地域です。

藤井町にある安正寺の由来書には、「昭和20年（1945）三河地震で本堂以外の建物は全て倒壊する悲運に見舞われた。」と記されています。この安正寺の敷地の裏に、昭和52年に三河地震追憶之碑が建立されています。碑表には、「昭和20年1月13日未明、突如として起こった三河地震は、藤井住民の尊い生命財産を奪った。この大惨事は藤井住民の臉に痛恨として、今もなお、強く焼きついている。当時、藤井は117戸であったが、数度の上下動と共に一瞬にして殆どの家屋が倒壊し、住民はその下敷きとなった。暗闇の中で互いに安否を確かめ合いながら、屋根瓦を素手で打ち破り、戸外へ這い出すことができたものの、引き続き轟音や閃光。次々に襲い来る余震に脅かされながら、住民は一人丸となって死傷者の救出や手当てに奔走した。血まみれの

労力にも拘わらず絶命するものが続出し、まさに、この世の生地獄そのものであった。しかも敗色濃き戦火の末期にて、三河地震の惨状は公表されず、住民は物心両面にわたって、筆舌に尽し難い惨苦を嘗めた。」と、当時の惨状が克明に記され、「爾来、30有余年、住民の自力によって復興を見た今日、往時の惨状を偲び、歸らざる災没者の冥福を祈ると共に、この実情を永く後世に伝えるため、ここに藤井町住民の総意により、この碑を建立する。」と、建碑の意が示されています。

以下は、藤井集落で被災した富田たつみさん（当時16歳）の壮絶な経験談です。「就寝中に激しい上下動が来て何もすることができなかつた。揺れがおさまったあと、電気をつけようと布団に入ったまま手を伸ばしたら、直接天井に手がついた。びっくりしたけれども、建物が松の木にもたれかかってペシャッとならなかつたため、自分は助かつた。」「となりの倒れた家が火事になり、中から『助けて！』という女学生の声が聞こえた。しかし、自分の家族のことで精一杯で、どうすることもできない。結局、何もすることができないまま、声は途切れてしまった」【1945年三河地震の被災者心理と行動パターン（[http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/kaishi\\_21/P235-244.pdf](http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/kaishi_21/P235-244.pdf)）より。このときの様子について、絵画として再現する試みも行われています。】

こうした碑文や体験談からは、耐震補強や家具の転倒防止など、とにかく自分の身は自分で守るための自助の重要性があらためて浮き彫りになります。



◆地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感しているだけでなくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしていきたい。

## ◆ 三河地震追憶之碑の周辺には…

### ● 安城市役所桜井支所（震災記念碑）

所在地：安城市桜井町大役田

交通：名鉄西尾線「桜井」駅南東約200m

昭和20年三河地震の記念碑です。碑文には「殊に大字藤井部落は数戸を残して倒潰し暁暗不遇にして惨



鼻を極め敗懐の相筆舌を超ゆ」と地震被害の状況が刻まれています。



### ● 城ヶ入町稲葉共同墓地（震災遭難之碑）

所在地：安城市城ヶ入稲葉

交通：市バス南部線「本郷」停西約300m

墓地内に昭和20年三河地震の「震災遭難之碑」が建立されています。碑には地区の被害の状況が記されているほか、「遭難者ノ尊イ犠牲に依り今日迄生ヲ長エタ事ニ関シ深く感謝シテ遭難者ノ霊ヲ慰メル可ク」と、犠牲者への感謝と慰霊のためという碑の建立目的が記されています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

## ★ 安城七夕まつり

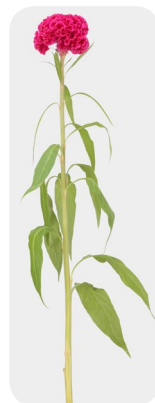
安城七夕まつりは昭和29年にJR安城駅前の商店街振興イベントとして始まったもので、毎年8月上旬の3日間、盛大に行われています。（平成27年は8月7日～9日）

見どころはまつりの華である竹飾りで、商店街や学校、企業、市民グループのみなさんが作った約1000本の竹飾りが安城のまちを彩ります。電飾を使った華やかなものから、風情を感じる昔ながらのものなど多種多様で、夏の青空の下でそよぐ竹飾り、夜空の下で灯りに照らされた竹飾りの、二つの顔を楽しむことができます。平成21年からは公式キャラクター「キーぼー」も加わり、「願いごと、日本一」をテーマとしてお祭りを盛り上げています。



### 8月のあいちの花

平成27年8月のあいちの花はケイトウです。ケイトウはヒユ科の一年生植物で、原産地はアジア、アフリカの熱帯地方と言われており、日本には奈良時代に中国を経由して渡来したことから、かつては韓藍と呼ばれていました。



形状がニワトリの鶏冠に似ていることが、和名（鶏頭）の由来になっています。

### ● ブレイクタイム ●

#### ♪ 北京飯

毎日農協から仕入れる新鮮な卵をトロトロに仕上げた卵飯の上に、カラッと揚げた三河もち豚のから揚げのった「北京飯」、甘めの卵とジューシーな豚肉がごはんと絶妙な相性の名物料理です。発祥は安城市の北京本店で、いまでは安城市内だけでなく、半田や武豊にも食べることができるお店があります。

デラックス北京飯、厚玉子北京飯、あんかけ北京飯といったメニューもあります。ぜひ一度お試しください。



『北京本店』

所在地：安城市三河安城本町2-4-1

交通：JR東海道本線「三河安城」駅 徒歩5分

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会（仮称）・名古屋大学減災連携研究センター 平成27年8月）